

一家団聚を思わせる昼食光景。「自分で食べられる？ 美味しいよ」「よかったア、食べれて」。女性ヘルパー3人が明るい笑顔で世話をする



に運んだ。

現在、「和が家」の住人の顔ぶれは86歳から101歳までの女性8人、80歳の男性1人だ。生方さんはいう。

「女性8人は、皆さん女性の平均寿命をしっかりと謳歌なさっている方々ばかりです。大変ありがたいことに、ご家族も絶えず訪ねてくださいます」

**24時間介護で医師と連携
個室でも孤独にならず
家族も一緒に泊まれる**

独居老人、介護困難、介護疲れと、

それぞれ入居事情の異なる住人9人は、どのように暮らしているのか。

Kさんの隣の8帖間に寝ていた94歳の女性は、昨日熱を出し、医師に往診してもらい点滴を受け、平熱に下がった。ふだんは2階の住人だが、昨夜は大事をとり下で寝た。襖を開け放した、キッチンでの話し声とテレビの大きな音が聞こえてくる畳の部屋で、洗いたてのタオルケットにくるまり、寝息を立てていた。

「1階は、Kさんのいらっしゃるお部屋と、純和風の座敷(2帖)を3つに使い分け、8帖3間。階段脇の6帖間と合わせて5

部屋です」(生方さん)

2階へ上がる階段は暖風に改修して、丈夫な手すりを右側に、電動式昇降リフトを左側に取りつけた。その階段を上がると、2階だけで床面積150坪とこれも広い。よく磨かれた木の廊下を挟み、南向きに6帖、6帖、8帖、6帖と計4室、北側が6帖間1室になっている。風通しも良好で明るい。窓から眺めた庭に百日

旧養蚕農家が、改修費600万円かけてミニホスピス「和が家」に生まれ変わった。庭の畑にはナスやカボチャなど夏野菜も植わる